

# J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 5 月号

## 1. 女性会がマスク寄付

J A 鳥取いなば女性会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響でマスクが品薄となっていることを受け、手ぬぐいを使ってマスクを手作りした。

作ったマスクは4月21日、谷口節次組合長に約100枚手渡した。女性会の前田四寿子会長は「喜んでもらえてよかった。なかなか先が見えない中、J A や地域と連携し、組織や地域の充実につなげたい」と話した。



## 2. 湖南支店 水稲情報コーナー設置

湖南支店は、2月上旬から同支店の入口に水稲情報コーナーを設置し、組合員や利用者の利便性向上につなげている。

この取り組みは、J A 全農が主催する「J A - P O P 甲子園 2 0 2 0」の自由創作部門に応募している。この大会は、肥料などの生産資材の店舗内陳列や P O P（店内広告）などによる売り場作りを全国の J A 店舗で競い、J A 店舗の活性化による組合員満足度の向上と、当用期における実績の拡大（競合店からの切り替え）を図ることを目的とする。

富家友美支店長は「職員のチャレンジ精神を高め、組合員・利用者の皆様にさまざまな情報を提供しサービス向上に努めたい」と話した。



### 3. 営農経済課担当者研修会

4月20日、農家のニーズに沿った対話と情報発信を目的に、本店で営農経済課担当者研修会を催し、今春入組した新入職員を含む約30人が参加した。

講師に全農とつとりと株式会社ランドサイエンスの職員を迎え、水稻育苗箱施用剤や防除剤採用など、管内の基幹品目である水稻の栽培方法の基礎などについて理解を深めた。

経済部の泉孝治次長は「常に学ぼうとする気持ちがスキルアップにつながり、組合員サービスの向上に寄与するものと期待している」と話した。



### 4. 五郎助祭（ごろすけまつり）

郡家支店柿生産部は4月15日、「五郎助祭」を八頭町で開いた。

特産品「花御所柿」の生みの親といわれる野田五郎助翁の碑に、生産者をはじめ、県・町・JAの関係者ら約30人が集い、柿生産の豊作を祈願した。

地域を代表する特産品「こおげ花御所柿」は、八頭町花の農民、野田五郎助が奈良県から御所柿の枝を持ち帰り、渋柿に接木したのが始まりと伝わっている。

同生産部の細田邦男部長は「農業者の所得向上のためにも、更なる販売強化に取り組み、気持ちを新たにして生産に取り組みたい」と抱負を語った。

